

3. 発達に応じたかかわり（2） 4, 5 歳児

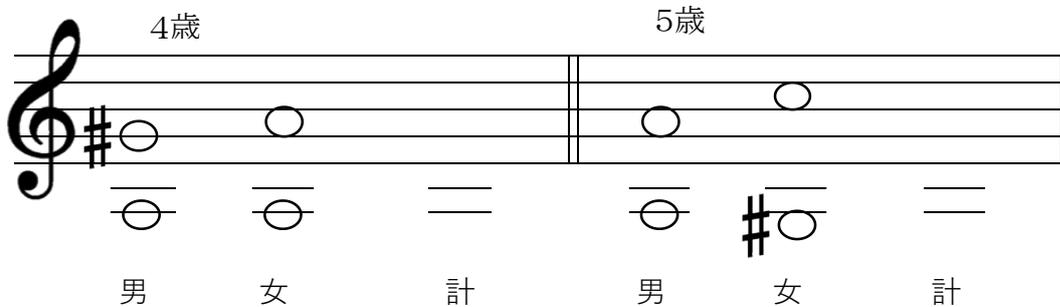
4 歳児（自己中心的な世界からぬけはじめる頃）

- 簡単な童謡を、ある程度正確な旋律やリズムでうたえるようになる。
- 保育者のピアノや友だちの歌に合わせてうたうことに慣れてくる。
- 歌いながら楽器を鳴らしたり、簡単なリズムパターンを打ったりできるようになる。
- 簡単な振りを覚えて曲に合わせて踊ることができる

5 歳児（自分の表現を意識すると同時に他者の表現にも関心を示し、合わせようとする頃）

- 声域が広がり、歌える曲のレパートリーが広がる。
- 保育者の指導によって、歌詞の意味を理解し、表現方法を工夫して歌うことができるようになる。
- テレビの影響を受けて、アニメソングやポピュラー曲などを好むようになる。
- リズム楽器の扱いに慣れ、歌に合わせて鳴らしたり簡単な合奏をしたりすることを楽しめるようになる。
- 音楽的な能力の個人差が大きくなる。

○子どもの声域（吉富 1983）※50%以上の子どもが正しく歌えた音域



○保育者のかかわり

- 友だちや保育者の_____歌うことを意識づける。
- 歌からダンス、合奏、ごっこ遊びなど_____を楽しませる。
- _____音楽遊びや集団遊びを楽しませる。
- _____に気付かせて、その曲にふさわしい表現方法を考えられるようにはたらきかける。
- _____を体験させる。
- コンサートなど音楽を_____体験をさせる。

○楽器を合わせて楽しみたい曲（4、5 歳児）

○ルールのある集団遊び（4、5 歳児）